

# Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年12月4日発行 No.57

『だから、目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、あなたがたには分からないからである。』  
(新約聖書 マルコによる福音書 13:35)

<くよいよ近づいてきたクリスマス礼拝!! でも、その由来や意味を知っていますか…?>

カレンダーが指し示すように、2017年も最後の月、12月を迎えました。そうすると街中の雰囲気もクリスマスに向けて豪華に、煌びやかになっていきます。「クリスマス」という言葉を聞くだけで、心ウキウキ…なんて人もいる事でしょう。

でも、ちょっと待って下さい。そもそも「クリスマス」って、どんな意味があり、なぜ世界的にお祝いされているか、ご存知でしょうか? 「クリスマスって何の日?」という質問に「サンタさんの誕生日!!」と答えてしまわないためにも、今回は、ぜひ押さえておきたい「クリスマス特集」をお届けいたします!!

まず基本中の基本である「クリスマス」、これは英語で書く(Christmas)とその意味がよく分かります。ここには大切な二つのキーワードが隠されています。すなわちこの世界の救世主(Christ=キリスト)と、礼拝を表すミサ(mas)です。「救世主がお生まれになった事を覚える礼拝」=クライスト・ミサが訛って「クリスマス」になったのです!! だから、この時にこそ礼拝を行うのですね!!

皆さんお馴染みの「サンタクロース」は、4世紀頃の東ローマの教父聖ニコラウスが、町の中の貧しい子供たちにプレゼントを贈った伝説が起源とされています。聖ニコラウス=セント・ニコラウスが訛って「サンタクロース」になったのです!! (なんだか今回は訛りが多いですね…w) ちなみにサンタが着ている赤白の服は、コカ・コーラ社のキャンペーンから生まれたそうです。

先週末は、神戸港に世界一のクリスマスツリーが飾られニュースになっていましたが、この起源にも注目したいメッセージがあります。クリスマスツリーには、常緑の針葉樹が用いられる事が多いのですが、これは、冬の間も緑を保つ強い生命力の象徴とされています。頂点に輝く星は、当然聖書に登場する「救世主の誕生を指し示す大きな星」を表します。上記サンタにも繋がりますが、プレゼントを贈るのも、東の博士がイエスに黄金・乳香・没薬を捧げた聖書の物語から由来しています。

まだまだ紹介したいネタがたくさんあるのですが、紙面の限界が近づいてきましたので、今回はこの辺で。最後にお知らせしたいのが神戸国際大学のクリスマス礼拝が今週水曜日12月6日の17:00~inチャペルで行われます!!! しかも今年は神戸教区の新主教、小林尚明先生をお迎えします!! 百聞は一見に如かず!! 経験は宝!! ぜひ一度、チャペルまで足をお運び下さい!!!! (^^) /”お祈りマシ!!!



震災による鎮魂と希望を表す灯籠



## <先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています。

11月27日(月) テーマ:「待つことによって生まれるもの」 野間 光顕(チャプレン)

「アドベントカレンダー」なるものをご存知だろうか?12月1日から一日ずつ小さな窓を開けながらクリスマスの到来を待ち望む…欧米ではこの時期によくお店に並ぶ定番商品だ。息子にプレゼントすると、その窓を全部開けたい欲求に駆られたようで、「もう一個開けていいかな?」「だめだよ」というやり取りが続いた。息子はこの時、生きていく上で必要な「ルール」や「忍耐力」を学んでいるように感じた。翻って私たちの身の周りはいかが? 便利で快適ではあるが、昔から大切にされてきた「じっくり取り組む」や「深く考える」姿勢が損なわれ、社会全体が「待つ」ことに対して苦手になっているように感じる。間もなく主の降誕を待ち望む「降臨節」を迎える。必要な準備をしつつ、改めてこの一年を振り返りながら、大きな喜びに向け心を合わせて「待つ」時としたい。

11月28日(火) ※この日は音楽礼拝、オルガニストの伊藤純子先生演奏に耳と心を傾けました。

12月6日(水)は、いよいよクリスマス礼拝です!!

11月29日(水) テーマ:「モーツァルトの職業」 東 弘彦(学院事務局長)

モーツァルトが優れた音楽家である事は周知の事実であると思われるが、彼の人生を詳しく見ると、ずいぶん苦労している事が分かる。宮仕えとして安定した生活をしていたのも東の間、主教とケンカ別れをしてしまい、お金を稼ぐために作曲やコンサートを続けた。聴いていると心が落ち着く美しい音楽を作りながらも、彼の生活は苦しく35歳の若さで亡くなってしまふ。モーツァルトは多くの人を幸せにしたが、果たして彼自分は幸せだったのか?と考えさせられる。産業革命やフランス革命等時代の変化もあるが、大きく考えれば職業と個人の関係は今もあまり変化していないように思う。時代を超えて、人は誰でも安定した職業を求め、親と似たような仕事に就く人も多い。しかし、どんな仕事でも誰かの役に立つ所があり、それを通して得られる喜びや誇りを大切にしたい。

11月30日(木) テーマ:「静けさの中で」 蔭山 颯人(経済学部2年)

私の趣味は「絵を描くこと」だ。中学生の頃、ふとしたきっかけで描き始め、今ではこれが自分にとっての生き甲斐にもなっている。絵に出会う前の私は、何の特技もなく、性格も暗く、人と話す事も苦手で「自分は生きる価値があるのだろうか?」と考えた事もあった。しかし絵を描く様になって色々な出会いが与えられ、人生が明るく楽しくなってきた。私が絵を描いている時は、沈黙の中で静かに描く時が多い。表向きは沈黙しているが、心の中で「少しでも人の癒しになれば…」という気持ちを大切にしながら描いている。この沈黙の時間が、自分を成長させる大切な時間だと感じる。暗いニュースも多いが、この時こそ心を落ち着けて、静寂の中で与えられるメッセージに心を傾けたい。



12月1日(金) テーマ:「ごめんなさい」 野間 光顕(チャプレン)

親元を離れ寮生活を送っている息子から手紙が届いた。人間関係でトラブルがあったが、自分から「ごめんなさい」を言えて、問題を解決したと記されており嬉しくなった。翻って私たちの集う社会はどうか? TVや新聞を賑わせている諸問題は、一言「ごめんなさい」が言えれば解決するのではないだろうか? 2017年も最後の月12月を迎えた。教会の暦では、来週からクリスマスへの準備を行う「降臨節」を迎える。大掃除に使う洗剤の宣伝文句「今年の汚れ、今年のうちに」が指すように、古い年月の間に抱え込んだ心のわだかまりも、「ごめんなさい」という魔法の言葉によって清算し、心穏やかに新しい年を迎えたい。

(文責:野間 光顕)